

むつ小川原開発関連海域温排水等 影響調査 (要約)

植木 龍夫・直江 春三・仲村 俊毅・尾坂 康・三津谷 正・永峰 文洋

I 潮間帯生物調査

調査方法

- 1) 調査年月日：昭和52年5月18日～19日、昭和52年7月29～30日の2回。
- 2) 調査地点：上北郡六ヶ所村出戸前浜から三沢市天ヶ森前浜までの8点。
- 3) 採集方法：干潮時に方形鉄枠を砂面に打ち込んでその内側の砂を採集し持帰った。ホルマリン固定後、篩で篩分け、出現生物毎に計数・秤量した。

調査結果

2回の調査でシキシマフクロアミ、ヒメスナホリムシ、ハマトビムシ類、ハマダンゴムシ、多毛類、コタマガイ、ヒトデの7種類の生物が見られた。このうちシキシマフクロアミとヒメスナホリムシの2種類は2回の調査共見られ、出現個体数も多かった。

II 底生生物調査

調査方法

- 1) 調査年月日：昭和52年4月23～25日、昭和52年10月15日～17日の2回。
- 2) 調査地点：上北郡六ヶ所村新納屋前浜を基点として南北に3km以内、沖合へ2km以内の52点。
- 3) 採集方法：潜水によりチトリ型の採集器にナイロンネットをかぶせて定量採集した。採集物はホルマリン固定して持帰った。
- 4) 種の同定と計数：二枚貝類の同定と計数を北大水産学部助手 中尾繁氏に依頼した他は、水産増殖センターで行なった。

調査結果

1) 第1回調査

第1回調査で得られた標本は、1,761個体、59種類に及んだ。単一種ではマルソコエビ、ハスノハカシパン、キサゴが多く見られた。

2) 第2回調査

第2回調査で得られた標本は11,994個体、65種類に及んだ。単一種では環形動物のカザリゴカイ科の1種が圧倒的に多く、全体の75.2%を占め、このほかにはハスノハカシパンが5.3%を占めた以外は5%以下であった。

調査の詳細な報告書は、近く県漁政課で印刷される予定。